



ナース★アクション



vol.11

2023.9.9
全日本民医連

全ての看護職員の処遇改善と体制拡充を求める国会請願を実現させましょう!!

前回の倍
200人超参加

軍事ではなく、ケア最優先の日本へ
これまでの到達に確信を深め、秋以降のアクションに元気に取り組みましょう！
ナース★アクション全国交流集会part2を開催しました

倉林明子参議院議員(日本共産党)が国会情勢報告



もう一步で請願採択出来るところまで見えてきた



★この間看護を巡って国会が確実に動いてきた。コロナ禍ということもあって、看護やケア労働に関心が集まり、もちろんバッシングもあったが、現場からの声と世論の高まりが後押しして、医療費抑制政策の中でもケア労働者の賃上げが必要だと政府も認めざるを得なくなった。皆さんが集めた11万の署名と、与野党の会派を越えて拮がった43人の賛同議員というのは、全会派が一致できるところまで進んだという事だと思います。もう一步で請願採択出来るところまで見えてきたのです。

看護師や医師・介護労働者の増員を正面に据えて

★コロナ禍でも政府は1万床のベッドを減らしてしまいましたが、更に急性期病床を減らすことで医療費を徹底的に削減しようとしています。急性期病棟の看護体制を地域包括ケア病棟の看護体制に評価替えしようとして画策し、看護師を増やさずに医師の働き方改革の圧力としわ寄せを看護にタスクシフトしてきています。医師の働き方改革自体もつじつま合わせで、労働負荷は変わりませんから、やはり医療全体で医師も介護も含めて、増員を正面に据えて、これからは取り組んでいく必要があります。



幅広い国民と一体となって、戦争準備を進める政治の転換を

★だいたい何でもここまで医療・社会保障削減をすすめるのかといえば、軍事費最優先の流れが、社会保障削減に直結しているからです。岸田政権が先の国会でしたことは、憲法を飛び越えて戦争準備に入ったという事、専守防衛をかなぐり捨てて、「敵国」に攻め入る事が可能な国に戦後始めて踏み込んだのです。だからこそ次の報酬改定ではアッと驚くくらい的大幅な引き上げを勝ち取る必要があるのだと思います。軍事費削って医療福祉にまわせという世論と運動と一体になって処遇改善も打ち出していく事が、秋以降の取り組みの成否を決すると言えます。

※集会の概要報告は別紙参照



//トリセツ//ナース★アクション2023年秋以降の取り組みについて

➔ 全日本民医連からの方針提起/2023年9月1日付全民医発(45)第ア-656号
に関して、解説させていただきます。



Q1.一番大きく違う提起は何でしょうか？

A1.「処遇改善」に加えて、「高等教育無償化」の取り組みを一緒に進めようという提起です。組織的にも看護委員会と看護学生委員会、そして看護学校副校長会議などが一緒にナースアクションとして体制を整え、力を合わせることをお願いしています。看護職養成はわたしたちの未来を創る課題です。つながりのある学生さんや、共同組織の皆さん等々、学費無償の世論を高めたいと思います。看護職を目指す学生さんたちにも「処遇改善署名」に幅広く賛同していただきたいと思っています。

Q2.新しい看護処遇改善署名は、これまでのものと何か違うのでしょうか？

A2.請願項目は同じです。この間集めた11万筆に上積みしていく署名です。上記の様な学生さんなど、これまで呼びかけてこなかった所に、更に拮げていただきたいと思います。1992年に「看護婦確保法」を国会議員全会一致で可決させたときのナースウェーブも圧倒的な国民世論を味方につけたからこそ実現しました。

